

私の小中学校時代

私は岡山県岡山市で生まれました。岡山は中国地方にあり、神戸市のある兵庫県と、原爆ドームで有名な広島市のある広島県の間にあります。岡山は桃の名産地で、日本のおとぎ話で有名な桃太郎発祥の地です。僕は桃が大好きなので、子供の頃はよく桃を食べていました。岡山の桃は、中身が白い事から、白桃と言われています。とても高価な果物なので、病気になった時のお見舞いの時くらいしか、普通食べられません。しかし実家がお寺なので、桃やマスカット等の高級果物がお供え物として、沢山ありました。だからいつでも食べる事が出来たのはラッキーでした。

小学生の頃は6年間、剣道をしていました。月曜日、水曜日、金曜日の週3日間は練習で、週末は試合でした。やり始めたキッカケは、練習を見に小学校の体育館へ行ったことです。練習をしている先輩たちを見て、すごく格好がよかったので、僕もやりたいと、両親にお願いしました。小学校の6年間は止めないという事が条件で、剣道を始めました。剣道は頭を守る、面、両手を守る籠手、胴体を守る胴といった防具と、それらを叩く竹刀があります。これらはとても高価な物で、簡単に買い換える事が出来ないの、体が大きくなってもしっかりと、大きめの防具を付けて練習した記憶があります。練習はとても厳しかったので、肉体的にも、精神的にも強くなる事ができたと思います。肉体的な辛さは、竹刀で叩かれるので、物理的に痛いという事。慣れてくると、練習中は痛くないのですが、家に帰ると体中がアザだらけという事もしばしばありました。精神的な辛さは、夏の暑さと、冬の寒さを我慢することでした。夏は体中汗ビショリで、しかも防具は洗うことが出来ないの、臭いがキツイという事。冬は、道場の床が凍る位冷たく、しかも裸足なので、心が折れる位、足の裏が痛いという事でした。特に冬は、滑り止め用に、水で塗らした雑巾の方が、床よりも暖かかったので、寒さに足が慣れるまで、その雑巾の上に乗っていました。試合の時は、小学生の部門は、男女一緒に試合をするので、かわいい女の子と試合をするのがとても嬉しかったです。もちろん試合前は面を外しているので、顔が分かり、どの子がかわいいのかを、みんなで確認していました。試合で一番辛い事は、当然負けることですが、精神的に辛かった事は、試合相手が、試合前に食べた餃子の匂いがきつく、近づきたくなかった事です。

中学生時代は、当時流行っていた漫画「キャプテン翼」に憧れて、サッカー部に入りたかったのですが、無かったので、軟式テニス部に入りました。またこの時期から、女性を恋愛対象として意識したと思います。初めてデートしたのもこの頃です。また、受験勉強を初めてしたのもこの頃です。勉強することが凄く嫌いだったので、両親に凄くプレッシャーをかけられました。当時は学歴至上主義の世の中だったので、仕方がないのかなと今思います。